

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101604		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム甲府後屋		
所在地	山梨県甲府市後屋97-1		
自己評価作成日	平成22年1月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山梨県内に4ホームで、連携を取りながら、どんな時でも入居者はじめ家族が、当ホームを利用してもらえるよう努力したいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国展開している法人であり、質の向上を図る家族アンケートの実施は、法人本部が毎年実施し、そこで指摘された意見・要望等は、それぞれ改善に取り組み、質の向上を目指されている。管理者は新任であるが、前任の管理者(現統括マネージャー)指導のもと、利用者主役で、職員は、裏方の黒子であることを認識し日々実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(愛の家グループホーム甲府後屋)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は勿論、ホームとしては「全ては入居者の為に」、安楽な生活を生涯送って頂きたいと考えている。	法人の理念、事業所の理念を管理者、職員共に理解しており、「主役は利用者」であると、黒子に徹した支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事などには参加させていただいている。	小学校との交流会、地区の運動会、敬老会に参加している。管理者は近所に挨拶回りして、地域との関係向上に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門職として、地区の民生委員を通じて相談を気軽にしてもらうよう周知している。地域貢献の機会が出来るように地域の方々との接点を作るよう努力をしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、ホームの活動内容の報告をし、参加者からの助言や地区の情報などを伺っている。	民生委員や行政の担当者の参加はあるが、家族地域の代表の参加は、開催日が平日であって少なく、今後、昼食会を持ちながら開催を考えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜に相談し、ご指導いただいています。近日には、他のグループホームとの交流会の機会を作っていただいている。	担当職員が運営推進会議のメンバーである為、事業所の実情を理解してもらっている。市全体の研修会など計画してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束廃止要綱を掲示しております。全体会議や合同研修などを通じて周知している。まだ入職したばかりの職員までには周知できていない部分はある。外へ出られない環境は身体拘束に当たる事はスタッフも理解している。かぎを掛けず、日中自由に出入り出来る環境作りは、継続している。	日中の玄関施錠などの身体拘束はなく、スピーチロックによる拘束についても、スタッフも十分理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料や実際にあったニュースなどを、本社よりの通達にて回覧したり、全体会議や合同研修などを通じて周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作れていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書・重要事項説明書の説明をし、分からない事や疑問点に関しては回答し、双方同意のもとに利用いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書にて、家族に伝えてあります。また、一年に1回、法人本部より家族に直接アンケートを送付実施し、結果を本部にて管理者に伝え、改善等の進捗を法人本部へ管理者が報告するシステムになっている。その際、アンケート結果集約したものを掲示している。	年一回、法人本部による家族アンケートが実施され、その折に出される家族からの提案や苦情、また面談の折に出される意見なども運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼・全体会議・ユニット会議に参加し、スタッフの意見を聞く機会をつくり、意見を反映させている。	職員アンケートを年一回実施し、意見を自由にいえる。朝礼の申し送りに職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人別人事評価制度があり、評価が給与に反映され、同時に今後の改善点等が、個々のスタッフに周知されるシステムをとりいれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内4ホーム合同の研修会や地域の研修などがあれば、スタッフに回覧し参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での交流は、少しですがある。近日には、地区の交流会・事例報告などが予定されている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を行い、本人の気持ちや要望や気持ちを正確につかむようにしている。また、出来る限りホームを実際に見学していただき、納得して入居していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を頂いた際には、必ずホームを見学していただきグループホームの果す役割や援助の内容を説明すると共に、家族の苦労や要望を伺い、十分納得した後に、入居頂く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際は、関係者からも情報を集めたうえで、相談者とじっくり話しあい、必要に応じて他のサービス事業者の紹介などをし、適切なサービスが受けれるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者は、グループホームは介護施設ではなく、認知症高齢者とスタッフの共同生活ですと、家族やスタッフには伝えている。お互いに苦手な部分を補いながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事でのお花見などには、家族にも参加いただき、本人ともども楽しんでいただいている。また、日々の細かい事も電話等で連絡をとり、一緒に考えて頂く様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際は、行きたい場所に行ったり、会いたい人に会ったりしていただいている。	息子さんとパチンコに行ったり、友達と一緒に外出されたり、自宅願望のある利用者には職員と一緒に、自宅まで同行したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、散歩・調理・掃除など、入居者・スタッフが、状況に応じて役割を分担し生活している。その中で、出来る事出来ない事それぞれありますが、お互いに補いながら生活できている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受ける際にもですが、退去をしなければならぬ状況になっても「何かありましたら、遠慮なく相談してください」と支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との面談を行い、本人の気持ちや要望や気持ちを正確につかむようにして、本人が良ければと思い、日々努めている。	晩酌をする、パチンコに行きたい等の意向があるので、希望に添った支援をしている。日々の生活の中から、意向の汲み取りするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活情報を記入していただき把握すると共に、入居後は情報をきっかけに確認をするように努めている。また、可能な場合は、本人が以前住んでいた自宅を訪問し、環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事出来ない事を正確に把握し、出来る事に着目し、持てる力の維持向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などでの意見交換などを通じて、本人が、安楽に生活出来るように必要があれば、家族や必要な関係者との話し合いなどに努めている。	月一回のユニット会議において、モニタリング、見直しを各フロアのスタッフで検討し、チームケアとして、面談の折話し合いをもち、家族を巻き込んで介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施記録を、通常の介護記録のほかに記録している。ケアプラン実施記録は日々のケアの反省も出来ると同時に、課題に対して○×△形式の為、見やすく、モニタリング意識ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、本人の要望に速やか、且つ柔軟に対応できるよう努めています。家族の中には、状況的に受診介助が出来る状態では無い為、状況に応じてはホームにて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員をはじめ、自治会の皆様に協力いただき、夏の盆踊りや地区の運動会への参加すると同時に、近隣の小中学校の福祉事業・職場体験を受け入れて、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に、入居後も継続して診ていただくか、往診医や近隣の専門医に診ていただくかは、家族の生活状況を含めて、適宜選択していただいている。決定後は、かかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるように支援している。また、受診状況等は速やかに家族に報告している。	2週間に一度医師、毎週連携する訪問看護による往診があり、歯科に関しては、協力歯科を利用している。眼科に関しては、個人個人職員が対応している。家族が対応されない場合は、電話で報告し、問題なければ、面接時に確認するようにされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に、訪問看護師の訪問を受け、健康管理の相談や、アドバイスをいただいている。また、24時間訪問看護師と連絡がつくシステムになっており、必要に応じてアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ず管理者またはそれに準ずるものが付き添い、病院側からの情報提供が速やかにいただける様お願いしている。また、入院中はできるだけ見舞い、その都度看護師等から情報提供をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における医療体制指針の文書を公表し、もしもの場合にどうしていくのかをいくつかの選択技を例にしながら説明している。また、入居後も体調の変化に応じて、繰り返し話す機会を設けている。	看取りへの対応について、出来る準備をしていくが、現状は、「重度化した場合における医療体制指針」があり、家族に説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを各ユニットに設置し、有事に備えています。応急処置などの説明は、参考資料を使い、全体会議などを通して周知しているが定期的には実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日々の散歩や地区の行事に参加し、グループホームへの理解を働きかけています。しかし、実際の避難訓練はまだ不十分である。	年2回避難訓練を実施している。夜間の場合など職員が少ない場合、近くに住まわれるオーナーに対応してもらえる。	夜間の災害に対して、不安を感じられていることで、近所との交流と消防の協力をえて、夜間の避難訓練を実施されるよう提案したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法に基づき管理しています。声かけや対応は、さりげなく行うように指導しています。居室は、あくまでも入居者の個人空間である事を理解し、入る際には本人に許可を得るように努めている。	理念に謳って、徹底されている。家族がこられた場合は、個人の居室で、触れたくない話があるときは、周りに人がいないことを確認し話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定して頂くように努めています。決して、スタッフ側の自己満足による押し付けにならないように、選択技を個々にあわせて提示し、出来るだけ本人の意思で生活している。希望を優先に考え、実現出来るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本になる生活の流れは一応あるが、そこにとらわれず臨機応変な対応を心がけている。何もしない事を怖がらず、本人が過ごしたいように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容業者に訪問していただいたり、訪問理美容以外での店へ行けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備から片付けまで一緒に行くことにより、好みや楽しみなどを共感している。普段と目先をかえて、外食の機会をつくっている。	自分のコップ、茶碗を使われ、洗い拭きを職員と一緒にして、食事も職員と一緒にしている。面談中に利用者が、お茶を来客にサービスされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎食記録し、総合的な栄養摂取を把握し、状態に応じた支援を実施している。また、自由にお茶やコーヒーなども飲んでいただけるようになっている。状態によっては、主治医に相談し、高カロリーのものを取り入れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促しをし、実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を個々に行い、失敗のないように努めている。万が一、失敗があっても、自尊心を傷つける事が無いように努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、トイレ誘導を行っている。布パンツの利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響をおおむね理解しており、食事量・水分量・服薬・運動などを把握して、便秘にならないように工夫対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂をたてて、希望者は毎日でも入浴出来る様努めている。(体調も考慮のうえで)入浴を希望されない方にも、無理強いせず、本人の意志にまかせ入浴をしていただけるように努めると共に、苦痛にならないような環境整備を心がけている。	入浴は個浴で、午後2時から4までを原則としている。入浴を拒む人には、家族に対応してもらい、温泉に連れて行ってもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活の中で、個人のペースで過ごせる時間を大事にして、常に安心して生活でき、不安感を持たないよう環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者は勿論、ユニットリーダーは個々の服薬目的や副作用を理解している。各フロアに個々の情報ファイルを置き、スタッフにも共有・理解出来る様に努めている。(ピルブックも設置)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、個々の状態に応じた役割をもっていただいております。また、必ずありがとうございますの言葉を忘れずに、少しでも達成感を感じていただけるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴など、戸外に出る機会を作っている。後は日常的に必要な買い物もスタッフと一緒に実施している。スタッフの見守りのうえで、金銭の授受を本人に行っていたりするように努めている。	食材購入にスタッフと一緒にでかけ、外食は月一回行きたいところに行くが、回転寿司が好まれている。畑で野菜を作ったり、散歩に出掛けることもあり、外出が出来る支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭管理はホーム側で行っていますが、中には家族の了承を得て、個人で小額の管理をしている方もいる。買い物の際は、商品を選んでいただき支払いまで見守りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロアーに設置した電話を使用して、希望があれば、電話連絡を取っている。手紙も同様に、自由にやり取り出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に清潔にし、カレンダーや写真など季節感のある雰囲気作りをしている。スタッフは入居者に対して配慮し、大声や騒音を出さないように心かけている。	広い共有スペースがあり、壁等には、利用者の作品が飾られていて、応接用のソファが用意され、くつろげるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にはベンチを設置し、入居者同士がゆったり過ごせる空間がある。フロアーにはソファを2脚置き、自由に使用してテレビやビデオ鑑賞が出来る様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、備え付けの家具ではなく、今まで使い慣れたものや思い出深いものを持ち込んでいただいている。	部屋には、冷蔵庫や仏壇、趣味の楽器など持ち込まれていて、居室内でも自分の趣味の活動がなされている。洗面台も居室内に配置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・階段には、手すりが設置されており、入居者の身体機能を活かせるようになっている。		